うしく里山の会 広報誌
さとやま
No. 121　2013年3月号

NPO法人 うしく里山の会
事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
（牛久自然観察の森内）
TEL 029-874-6600　FAX 029-874-6812
HP http://ushiku-satoyama.org/
（アドレスが変わりました）

子どもの笑顔とともに！自然に飛び込む

牛久自然観察の森　レンジャー　丸山　淳子

もりの中で自然の豊かさや楽しさを学ぶ親子

しぜんっこくらぶでの活動

私が主に担当している牛久自然観察の森、主催行事「しぜんっこくらぶ」についてご報告します。

「しぜんっこくらぶ」とは対象としている参加者は2歳以上の幼児とその親。内容は心と身体に優しい自然観察、伝統行事体験です。毎月1回、主に第3木曜日　午前10時～正午に活動していて、1年間通して森の四季の移り変わりを感じてもらうため年度会員制をとっています。

幼稚園、保育園に入る前の親子が習い事感覚で参加してくれていて、主に子どものためになるからと考えて参加していただいているのですが、私は実はお母さんたちをなんとかして森で引き続き活躍してくれる、人材になってくれないかと仲間作りを意識して活動しています。

「しぜんっこくらぶ」は本年度で18年目を迎えました。これだけ長く続いている理由としては、職員だけでなく支えてくれるボランティアスタッフの力があったからだと思っています。このボランティアスタッフは主に、参加者だったお母さんがそのままボランティアスタッフとなっている方がほとんどです。このボランティアスタッフを増やす、もしくは維持しないと、今行っているような「しぜんっこくらぶ」そのものも続けていけないと思います。

ボランティアスタッフは当初からいる方を含め毎年、10人前後が登録していただいています。毎回4～5人参加していただくと、参加者すべてに目が行き届きます。そして活動中、12月は冬至にからめかぼちゃのホットケーキづくり、1月はおもちつき、2月は味噌作りと豚汁づくり、3月は草だんごづくりなど参加者が散策して帰ってきて食べられるよう煮炊きをしています。

「しぜんっこくらぶ」は自然観察をすることが一番のねらいですが、それに加え季節のものを何かつくって楽しむということも大事にしています。

（次ページへ）

プロジェクト活動報告

絵本読み聞かせボランテアの事前研修

先月、2月8日（金）午前10時～正午までしぜんっこくらぶサポートボランティア研修会を行いました。

前半の1時間は21日「しぜんっこくらぶ」実施にあたっての自然観察ポイントを、バッタの原とコジュケイの林の場所で探し、確認しあい、後半1時間はバッタの原日時計付近の場所の落ち葉かきを行いました。

この場所は次年度から「森でランチ♪」「しぜんっこくらぶ」が主に使用しますが、来園された子どもたちが安心して遊べる場所にするために、積極的に除染作業することになりました。以前夏に草刈りをしてつんでおいた草をもっと奥へ移動する作業と、落ち葉を集め同様に人が入らないよう奥の場所へ積み上げる作業をしました。

行う前と行った後の放射線量を計測しましたが、やはり行った後、放射線量はわずかながらも下がりました。寒い日でしたが、汗をかく作業でした。

「大変だけど、子どもたちが笑顔で楽しく遊べる場所になれば」といってくれたボランティアスタッフのみなさん。私はとってもうれしく思いました。

以前ボランティアスタッフが「うちの子が子どもを産んでまたしぜんっこくらぶに参加できるまでがんばるわ！」といっていたのを聞いたので、その思いを受け止めて、私が担当でなくてもずっと未来の子どもたちに引き継げるよう、スタッフを育てたり、同じ思いの仲間を集めたりすることに、これからも力を入れていきたいと思います。

巨木リサーチ2事業報告

代表　渡辺　泰

牛久市協働巨木リサーチ事業の終了と後継事業について

A 巨木リサーチ事業の終了

○事業目的

牛久市協働事業として、「市民の木」を中心に巨樹等を調べ、結果を報告会や冊子等を通して市民に提供することが目的です。

○取組みの経過と結果の概要

平成18年4月から21年3月までの3年間をフェーズ1として、平成21年4月から25年3月までの4年間をフェーズ2として推進しました。

参加登録メンバーは平成18年4月には39人、平成24年4月は9名でした。なお、研修見学活動は全期間継続しました。

フェーズ1では後期の追加調査を含め、市内の巨樹等167本、66樹種を調査、75本の巨樹とその主要巨樹としてケヤキ20本、スダジイ14本を確認しました。調査木周辺の植生調査では牛久市絶滅危惧7種、6希少種を解明しました。

この他、平成18年度は「市民の木」と地域住民との関りの聞取り調査、

記念撮影 城中町のタラヨウの古木の前
08. 5.4

同19～20年度には街路樹の種名板取り付けのための基礎調査をそれぞれ実施しました。フェーズ2では平成21～22年度の前期と平成23～24年度の後期の4年間継続しました。前期では、樹勢の衰えた6樹種16本を診断。また、前・後期を通して、12樹種36本の生育環境の整備を実施。さらに、市民を巨木等の生育場所へ案内し、最新の成果を説明するガイド活動を4年間に10回行い、延べ250人の参加がありました。後期には巨木等を中心としたスポット的活動から樹木全般を対象とした面的な活動に取組み、「牛久の里山樹木ハンドブック」を編集発行しました。

「牛久の里山樹木ハンドブック」の最終校正　13.2.8

○実績と成果

①「資料写真展」平成19年3月3～4日
②「報告会・資料写真展」平成20年3月20～23日
③「報告会・資料写真展」平成21年3月14～15日
④「里山セミナー牛久の巨樹」（うしく里山の会ホームページへ搭載）平成12年10月13日
⑤「牛久市協働事業巨木リサーチ事業報告書」平成23年3月
⑥「牛久の巨樹」（市販）平成23年3月
⑦「『牛久の巨樹』の広報うしく紙上での樹種別広報の連載」平成23年4月開始
⑧「市民の木ガイドマップ」（写真・データの提供）平成24年3月
⑨「牛久の里山樹木ハンドブック」（市販）平成25年3月

本事業の推進に協働いただいた牛久市建設部緑化推進課、ご支援・ご協力いただいたうしく里山の会の関係者、牛久自然観察の森、調査木の所有者等に対し感謝申しあげます。

B・巨木リサーチの後継事業

平成25年度からは市の緑化推進行政に資するため、現在の事業の一部である「市民の木」を中心とした「巨樹の生育環境管理」および「広報うしく紙上での『牛久の巨樹』の広報」を引継ぎ、緑化推進課所管の「市民の森」他を対象に樹木の種類とその構成を明らかにし、調査結果をパンフレット等に取りまとめ、市民への広報を実施予定です。

新刊の「牛久の里山樹木ハンドブック」を活用し、参加者が当該活動を通して、身近な樹木の名前を覚えられるような活動を併せて推進する計画です。

○事業期間　平成25年4月～28年3月

○事業内容

①調査場所　25年度－南裏市民の森、26年度－篭田市民の森、27年度－上池親水公園。
②調査項目　全域の樹種名・幹周・写真撮影他。

巨木リサーチ後継事業への参加者募集

巨木リサーチ2事業代表　渡辺 泰

身近な「野生の木」の名前を覚えませんか

うしく里山の会では牛久市との協働事業として、巨木等の調査・広報活動を進めてきました。

平成25年度からはその後継事業として、「市民の森」等の樹木を調べ市民に紹介する活動を実施する一方、新刊の「牛久の里山樹木ハンドブック」を活用して、参加者が身近な野生の木の名前を覚えられるような活動を行う計画です。身近な野生の木に関心のある方のご参加をお待ちします。

活動期日　毎月の第1日曜日と第4土曜日の午前
参加費　年間2千円（里山の会々員は無料）
募集締め切り　3月17日（日）
申込み先　巨木リサーチ2　渡辺 泰
電話・ファックス：029-873-0021
メール：u-plant3@jcom.home.ne.jp

里山自然観察隊

秋山 侃

2月度モニタリング1000里地調査を実施

2月9日8時半、平均年齢約70歳の常連3人組が得月院駐車場に集まり、2月度の城中コースの植生モニタリング調査を実施しました。

立春も過ぎたというのに風が肌を刺すように冷たい日でした。前月は降雪3日後でところどころに残雪があって調査が困難だったり、雪の重みで折れた竹に行く手を遮られたりしましたが、今回はただ

ひたすら寒いだけ、我慢すれば何とかなるという日和でした。

全長３㎞ほどの城中コースは、大きな屋敷林の下の崖に面した道路に始まり、竹林や大樹の間の小径、住宅街の道路、開けた畑や空き地、城中の鬱閉（うっぺい）した森の中、牛久沼に近い住宅沿いの道路、水田や放棄田の畦道、暗い切り通しの坂道、住宅街、そして最後は得月院裏の森の下と、様々な環境が含まれています。

温度や光環境、土壌水分なども各区で異なり、これに適応した植物が生育しています。

今回の調査では14の区で延べ３００弱の植物（樹木は含めていない）が登録されました。夏から秋にかけて延べ５００近い植物が出てくるのに比べると大分少なくなっています。

実際の植物の種数でいうと、草本類が79種、シダ植物が25種、合計１０４種が出現しましたが、草本類は77％が地上部は枯死していて、種子や実が付いているのみですので冬枯れの感は否めません。これに対してシダ類は76％が常緑か冬緑性で、区によってはシダ類ばかりが目立ちます。中には冬の間だけ元気なフユノハナワラビやオオハナワラビも見られます。また、カニクサ（シダ植物）のように、冬の間寒風に吹きさらされた個体は枯れるが、条件の良いところでは緑を保つなど器用に生きているシダもあります。

赤く熟したタコノアシの種子

さて、前号で平塚さんが書きましたように、３年間調査を行ってきた城中コースも次回３月の調査をもってしばらく休止することになりました。データを精査していませんが、これまでに３００種近い種類の植物が出現したのではないでしょうか。キンラン、ヤマタツナミソウ、ウマノスズクサ、ジョウロウスゲ、タコノアシなど稀少植物もありました。反面、新たに入ってきた外来植物種も増えています。

今後は蓄積したデータを解析してみるつもりです。また、時間をおいて同じ調査もやってみたいと思います。

雑木林応援隊
若杉　一行

応援隊の活動

○炭焼きと公開炭焼き講座

今年も例年通り、１月の最初の活動は、炭焼きと公開炭焼き講座で始まりました。

１日目は、炭窯に火を入れ、炭焼き講座用の竹を、炭焼きに使うオイル缶の長さに切ったり、割ったりして準備しました。

２日目は、通常より30分早く集合、炭焼き講座の準備に、燃料にする杉材を森から運び出し、それを割ってマキを造りました。結構太くて重い杉材だったので、運び出すのに一苦労、また、普段まったく使うことがないマサカリでのマキ割りは、なかなか思ったところに命中しません。でも、慣れない作業をするから面白いのか、だんだん思ったところに命中するようになるのが面白いのか、とても楽しい作業でした。さらに、隣の空き地に炭焼き用のオイル缶を埋める穴を掘って準備。応援隊メンバーの共同作業です。後は「オイル缶で炭焼き」のレシピ通りです。今回の炭焼きは、竹炭でしたので２日で完了です。

○竹の子堀

毎年５月、ムジナの里にある竹林で竹の子を堀るのを楽しみにしています。ムジナでの作業の後、みんなで一斉に竹の子を掘って、山のように積み上げ、欲しいだけの竹の子を袋につめて帰ります。

すぐに竹の子の皮をむき、七輪に炭火を起こして湯がきます。

少し糠を入れてもいい。この時使う炭は、もちろん戴いた炭です。灰汁もなくとっても美味しい竹の子でした。

平成23年の東日本大震災に伴って発生した福島原子力発電所の事故のせいで、牛久市も放射能に汚染されました。

市役所敷地内での除染作業も見ましたし、近場では、上柏田第２公園で除染が行われるのも見ました。

炭焼き講座後の記念撮影

放射能のせいで、去年、ムジナの里の竹林の竹の子は、一本も収穫されずに放置されたままになりました。ほかの、契約しておられる皆さんの竹林も同じでした。

今年は、きっと美味しい竹の子を収穫できるだろうと、今から楽しみにしています。

炭焼き講座の作業風景

あやめ受託事業報告

佐藤　輝雄

アヤメ園今年の作業を開始する

2月14日（木）から今年度の作業を開始した。一時、暖かかった気温もここのところの寒波襲来で真冬の寒さに逆戻りしている。

久しぶりの作業に身体の動きが追いついていかない。休憩時間が中々来ない。作業時間がいやに長く感じる。

12月半ばから約2カ月休みに入ったわけだが、月・木の週2回の作業がないということは非常に楽に、そして時間の余裕がしみじみと感じられた。

株に牛フンを散布する　坂

今年も例年同様、雑草との追いかけっこのスタートを切った。早速の作業は寒肥ということで、今年の期待を込めてたっぷりと牛フンを与えた。昨年以上に花を咲かせてくれることを願う。

たんぼの雑草はまだ静かにしているが、種類によっては一部顔を出し、我々のすきを狙っているものもある。この寒さにものともせず、所々緑みどりとしている。そんなところは除草を始めたが、たんぼの土は凍りつき中々抜けるものではない。勿論水の中の生き物たちもおとなしく土の中に潜んでいる。3月の陽気が待ちどうしいのだろう。田んぼにいる私たちには、容赦なく沼から冷たい風が吹きつける。

一方では水面が凍っている池の中でスイレンの除去作業も始められた。胴長を着て氷を割りながらの作業はこれまた厳しい。

池のスイレンは繁殖が激しく、ある程度除去しないとシーズンは葉が生い茂り水面が見えなくなり、花も葉に埋もれてしまう。そして根が底面30㎝くらいの厚さになりヘドロ化してしまう。手作業での除去は厳しいものである。来園するお客さんに、スイレンの花を写したいが水面が見えないと絵にならないよ、とクレームもある。

本当にアヤメ園の作業は好き者でなければできない。

スイレンの根を除去するメンバー　坂

自由投稿

飯田雅俊

ボランティアに行って来ましたの続き

まえにボランティアに参加するまでのことを書きましたが、今回は何をしてきたかを。

1日の流から6時40分起床、各自朝食（前日買っておいたパンなど）、7時ラジオ体操。朝礼で各自行き先の確認出発となります。現場に着く前にコンビニにより昼食の購入、これは各グループによってちがいます。仮設商店街あるいは地元の食堂にいったりと。3時過ぎに現場から帰途につくが、作業内容で遅くなったりする。5時より宿舎の清掃・打ち合わせ5時30分ごろから10時消灯までは自由時間。その間に各自夕食（コンビニで買ってきた弁当など）・シャワー等となる。

津波で流されてしまった吉里吉里保育園が高台移転するための予定地の整備。高齢者施設と一緒に建設するという。本来ならば行政が業者に発注すればよいことなのだが、経費を少しでも安くとのお手伝い。現地について渡されたのがヘルメットと竹用ノコギリ、指の太さ位の木を切り始める。広場の広がりの中でどうしてもじゃまとおもわれる太い木があり手を出してしまう。木にノコギリの刃が挟まれてしまう。どうにか引き抜いた時に昼。

近くの仮設のラーメン屋で昼食。現場に戻り先ほどの木を、適当の長さに

切り分け3時過ぎに終了し帰路に。

この時は応援隊の皆さんの顔と道具が思い出された。今回参加してかかった費用を寄付したならばチェーンソー・刈払機が購入でき整備はやく終わるのではないかと思った。

吉里吉里という地名は井上ひさしの小説「吉里吉里人」の中の架空の場所とおもっていたが昔からの地名とわかった。砂を踏みしめるときの音が地名にと聞いた。

文化財レスキューというのがあり、津波で塩水に浸かってしまった書類をアルコールで洗う。書類は大槌町の昭和5年の議会議事録であった。全国から送られてきた図書が28万冊ありこれを沿岸の学校に送る。最近になってようやく送ることができるようになってきたと、1年以上過ぎて今である、分類された番号が本にはさまれている。分類シールに番号印を押し背表紙に貼る作業。私たちを指導した人は遠野市期限臨時職員と聞く。マンパワーも足りなく、ようやく分類が終わった段階のようである。遠野市の旧庁舎に山積みになっていて作業場所もせまいように感じた。高校時代に回し読みした本があり手が止まってしまう。本を眺めてばかりで作業ははかどらなかった。

ここでの昼食時の会話、神戸から来た留学経験あり外資系を早期退職した人が若者2人に向かって、なんでここに来たの、勤めて3年25歳、あまりにもひどい会社なのでやめて名古屋から1週間の予定でここにきた。徳島の実家に帰り公務員をめざすと。

東京新宿アパレル関係に勤めている女性が、それってブラックじゃんと云う。私はブラックの説明をうける。基準監督署が入っても出先までは来ないという。

30歳前のもう1人の若者は飲食関係に勤めている。女性がうちの会社の食堂まずいのよねと云うと、外食チェーン店でそういうのと違うし、今は盛岡にいると。彼も会社をやめて就職してないよう。ここのボランティアは初めてではないと。少しだが不況の世間を感じる。

国道45号線沿い大槌町の花壇を作る作業、今日は人数が少ないので雑草取りにしましょうとなる。

町に着くとお祭り行われていて鹿・虎・獅子舞いとあり、せっかくだからと見学後の作業となる。

この作業をおこなっていて、私は本当に復興に役立っているのかと感じたが、ハード面だけでなく住んでいる人の気持ちをやわらげるのも、復興と自分を納得させた。お祭りには千葉から3台のバスがボランティアツアーで来ていてお土産を買っていた。

仮設住宅でのお茶っ子に参加。大船渡赤崎地区の仮設住宅に入って住民同士の仲立ち、話し相手になるという主旨だが、いろいろな話を聞かせていただいた。

腰痛のため力仕事を避けていたが、最後と思い釜石での瓦礫撤去作業を希望したが、台風の影響で沿岸部は雨のため中止となり、マイクロバス2台で沿岸部の視察となった。作業で行けないところに行けた。陸前高田はTVで見ていたが。

釜石・大船渡などと違って平地が広くすべてが津波に持って行かれたため被害が大きかった。まだそのままに残されている。いろいろな事情があるにせよ復興が遅いと強く感じた。

いろいろな人と出会うことができた、昨年から幾度か来ている東京西部の中学校の先生。九州から来た先生、福島が入れるようになったのでこの後、福島によって行く千葉の先生。いずれも退職されている。保育園整備を行ったときの神戸から来ていた退職公務員。北海道からの若い女性（YG）、神戸からのYG，花壇整備をした東京のツアーコンYG、彼女は勤務が空いたときに時々来ている。40過ぎの神奈川のサラリーマン、50前の大手証券会社都内支店勤務。彼は車で来ていたので夕時に元先生や若者と遠野名物のジンギスカンを食べに、お風呂にと行動を共にした。

ボランティアに来ている人は東京の人が多いと思っていた。東京は東北の方が多く距離も近いのでと私は思っていた。けれど関西の人が多い。神戸の震災があると思う。富める者が貧しき人を救うという一方通行ではなく、相互扶助・お互い様という考え方があるように思う。

月曜日はボランティアも休みとなる。洗濯をしたりと、せっかく来たのだからと自転車で民話にあるカッパ淵を見学し、伝承館で語り部による民話を聞き、遠野博物館を見学してきた。帰りには新花巻で賢治館の見学もできた。

復興の一助と思いお土産を、応援隊には気仙沼で買ったフカヒレ入りまんじゅうを、フカヒレどこに入っているのと言われ、応援隊にトリュフ・フォアグラいや大間のまぐろといったところだった。

この会報が届いているころはもう少し北に行って？10年前の14の春に帰ることができているかもしれない。

事務局からのお知らせ

新年度の会費納入はお済みですか？

平成25年度会費納入はお済みですか？

会員資格を更新する為の、継続会員の納入期限は2月末でしたが、まだお済みで無い方がいらっしゃるようです。

会費納入が行われない場合、この「会報誌さとやま」の発送も、今号（3月号）でストップいたしますのでご注意ください。

なお、納入用紙を紛失された方は牛久観察の森ネイチャーセンター受付までお越しください。里山の会ボックスに用紙がございます。

（各プロジェクトの責任者、副責任者、会計担当の皆様は、活動時にメンバーへの声かけ、確認をどうぞ宜しくお願いします）

斎藤　孝

広報担当より

会報の刷新と広報担当の交代について

この度、会報紙「さとやま」を刷新することになりました。

全ページカラーにして、年4回（春・夏・秋・冬）の発行となり会員の皆様にお届けすることになります。

同時に編集担当も変更することになりました。

新しく　**坂　弘毅**氏　が担当いたします。

今まで長い間、会報紙「さとやま」をご愛読いただきありがとうございました。皆さまのご協力でなんとか会報の発行を続けることができました。これからも皆さまの投稿やご意見をよろしくお願いいたします。

佐藤　輝雄

結束町みどりの保全区　エコアップ作戦

蓮尾　亮

うしく里山の会全体事業

「結束町みどりの保全区エコアップ作戦」

参加者募集のお知らせ

牛久市結束町の牛久自然観察の森に隣接する「牛久市結束町みどりの保全区」の森林維持管理作業を行う「エコアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行なっています。3月にはウメなどのお花がさき、春を感じながら活動を行うことができます。ぜひ一緒に保全活動を行いましょう。

活動には会員・一般問わず参加出来ます。皆様のご参加お待ちしています。

3月の活動日時→第1金曜日と第3日曜日の活動になります。

1日（金）午前9時～11時30分

17日（日）午後1時～3時30分

集合→牛久自然観察の森ネイチャーセンター1階倉庫前（予約不要／荒天時は中止）

持ち物→長靴、軍手（長袖、長ズボン）

※刈払機・チェーンソー使用は資格所有者のみ。

問い合わせ先

029-874-6600

担当：石神

身近な樹木 No.24 アケビ

落葉つる性木本で、本州から九州に分布しています。市内では斜面林・雑木林の林縁などに見られます。葉は掌状複葉で小葉が5枚（同属のミツバアケビは3枚、市内ではアケビより多い）。花は散房状で垂れ下がり、基部に1～3個の長い柄をもつ雌花を、先の方に数個の短い柄をもつ雄花つけます。満開時は大きな雌花が目立ち、小さな雄花はその陰に集まっています。紅紫～淡紫色の地味な花ですが、その構造はおもしろく、近寄ってご覧になってください。なお、花には花弁が無く、3枚のガク片が花弁のように見えています。

アケビの魅力は、秋に紫色にぶら下がる果実にあります。長さ8㎝前後で紫色をおび、熟すと裂けて半透明ゼリー状の果肉がのぞきます。口に入れると甘くて独特な舌触りで美味しいが、種子の多さに驚きです。栽培種も普及していますが、種子無し品種を期待します。他に若芽も果皮も山菜として、その独特なほろ苦さが好まれます。またツルは籠の材料、太いものは生薬‐木通（もくつう）として利尿・消炎に用いられます。

子供の頃、春は若芽（木の芽）摘み、秋は果実採りに夢中になった田舎の山を思い出します。

（羽賀正雄）

【小葉の数と縁の形】
(右)アケビ:5枚で鋸歯がなく全縁
(左)ミツバアケビ:3枚で波状の鋸歯
渡辺　04.4.12/98.4.16

2013年 3月 NPO法人うしく里山の会 活動カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
					1 ○里山保全ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ 9:00NC ○ｸﾗﾌﾄﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ(特) 13:00NC	2
3	4 (休園日) ○アヤメ園(受) 7:50アヤメ園P	5 ○森の畑 13:30畑	6	7 ○アヤメ園(受) 7:50アヤメ園P	8	9 ○里山自然観察隊 (ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ里地調査) 8:30得月院前P
10 ○雑木林応援隊 9:00ムジナ	11 (休園日) ○アヤメ園(受) 7:50アヤメ園P	12 ○森の畑 13:30畑 □刈払機講習会 9:00NC	13	14 ○アヤメ園(受) 7:50アヤメ園P	15 ○ｸﾗﾌﾄﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ(特) 13:00NC ○巨木ﾘｻｰﾁ2(特) 9:00NC	16
17 ○運営委員会9:00NC ○臨時理事会11:00NC ○里山保全ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ 13:00NC	18 (休園日) ○アヤメ園(受) 7:50アヤメ園P	19 ○森の畑 13:30畑 ○ﾁｰﾑ'街路樹20(受) 8:30ボランティアC (巡回管理)	20 (春分の日)	21 (休園日) ○アヤメ園(受) 7:50アヤメ園P	22	23 ○ﾁｰﾑ'街路樹20(受) 13:00交流会
24 ○雑木林応援隊 9:00炭屋 ○巨木ﾘｻｰﾁ2(特) 9:00ボランティアC	25 (休園日) ○アヤメ園(受) 7:50アヤメ園P	26 ○森の畑 13:30畑	27	28 ○アヤメ園(受) 7:50アヤメ園P □ﾁｪｰﾝｿｰ講習会 9:00NC(28～29日)	29 □ﾁｪｰﾝｿｰ講習会 9:00NC(28～29日)	30
31						

※活動日は天候等により変更となる場合があります。

最新情報はホームページをご確認ください。

【凡例】

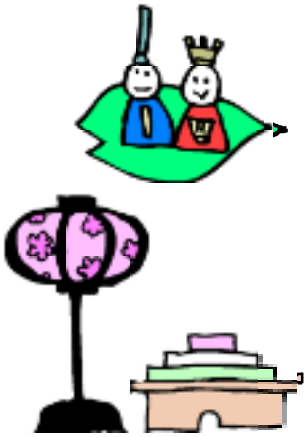
森：牛久自然観察の森
NC：牛久自然観察の森ネイチャーセンター
P：牛久自然観察の森駐車場
炭小屋：牛久自然観察の森駐車場奥の炭小屋
畑：牛久自然観察の森駐車場奥の畑
コジュケイ：牛久自然観察の森コジュケイの林
観察舎畑：牛久自然観察の森内観察舎前の畑

ムジナ：結東町の雑木林（通称ムジナの里）

市役所：牛久市役所本庁舎
市役所脇：市役所横の近隣公園
ボランティアC:牛久市ボランティア市民活動センター
中央生涯C：牛久市中央生涯学習センター

アヤメ園：三日月橋観光アヤメ園

(休園日)：牛久自然観察の森休園日
(受)：受託事業
(特)：特別事業



編集後記

今年も寒い冬が過ぎ、うららかな春の便りの季節となった。二十四節気の啓蟄・春分も3月である。

今年の啓蟄は3月5日で、冬ごもりをしていた虫が暖かくなって外に出てくる時期という意でもある。また春分の日は3月20日。一般的に昼夜の長さが同じといわれるが、実際には夜より昼の方が長いようである。日本付近では平均すると昼の方が約14分長いそうだ（理由はいくつかあるがここでは略）。

一方では毎年悩む花粉症の季節でもある。私も早速薬を服用始めた。年齢とともに症状が軽くなる人もいるようだが・・・。

●先日、読売新聞に生き物の絶滅の記事が載っていた。皆さんにとっては今さらと思うかもしれないがおさらいのつもりで記してみる。（日本でのレッドリストの分類で環境省が昨年夏見直した）

①絶滅－すでに絶滅（ニホンカワウソ）
②野生絶滅－飼育・栽培されるものなどしかいない（クニマス・トキ）
③絶滅危惧種1A類－ごく近い将来に絶滅する危険性が高い
④絶滅危惧種1B類－近い将来に絶滅する危険性が高い（ライチョウ・ニホンウナギ）
⑤絶滅危惧種2類－絶滅の危険性が高まっている（メダカ・ハマグリ）
⑥準絶滅危惧種－生息環境によっては危惧種になる可能性（トノサマガエル）とあった。

地球上に生物が誕生して以来、今は6回目の大量絶滅期といわれているようだ。メダカ・トノサマガエルなど身近な生物でもある。

●今まで長い間編集に携わってきた私が今月号をもって担当を交代することになりました。

この編集後記もこれが最後となりました。会員の皆さんから励ましの言葉を頂き感謝申し上げます。次号から、**坂　弘毅**氏が担当します。今まで以上によろしくお願いいたします。

佐藤輝雄記

広報委員会からのお知らせ

次号2013年春号の発送は4月初旬発送の予定です。うしく里山の会ホームページではカラーの会報を見ることができますので是非ご覧下さい。また会報に対するご意見や皆さまからのご投稿をお待ちしております。

メールのアドレスは(u-satoyama@jcom.home.ne.jp)です（4月から変更の予定ですがこのアドレスでも可能です）

※表紙上段の「うしく里山の会」のホームページのアドレスが変わりました。